

ネパール大地震 緊急人道支援報告

UNHCR はネパールで起きた過去 80 年間で最悪の地震による被災者救援に尽力しました。



生後 8 日目に地震に見舞われたシュレヤの家族は、最も被害のひどかったニューワコット地区に住む。© UNHCR/Diego Ibarra Sanchez

UNHCR は過去 30 年間にわたって、チベットやブータンからの庇護希望者 4 万人近くを援助するためネパール国内で活動してきました。ネパール南東部には、ブータンからの難民約 2 万 5000 人が 2 か所のキャンプで暮らしています。4 月 25 日にネパールを襲ったマグニチュード 7.8 の地震以降、回復には程遠いものの、状況は日々改善しています。世界中から寄せられたご支援のおかげで、UNHCR は 420 万ドル（約 5 億円）以上の資金を被災者救援活動に活用することができました。そのおかげで、人々がこの危機を生き延びられるように物質面でも精神面でも助けることができました。

今回の災害における UNHCR の役割は、シェルター用にすぐに使える資材や、法的・精神的支援を、家から避難した数十万人に提供することでした。以下は、地震発生直後から UNHCR が取り組んだ援助活動に関する報告です。6 月現在、復興や開発を担う機関が現地での活動を始めているため、UNHCR はその緊急段階での役割を終えようとしています。もちろん、今後とも UNHCR はネパールに留まり、チベットやブータン出身の難民支援に関わる業務を続けていきます。

UNHCR が達成したこと

UNHCR は現場で最初に動いた機関でした。地震が起きる前から、UNHCR は過去 30 年間にわたって、チベットやブータンからの庇護希望者 4 万人近くを援助するためネパール国内で活動してきました。ネパール南東部には、ブータンからの難民約 2 万 5000 人が 2 か所のキャンプで暮らしています。

UNHCR は彼らの安全を守りつつ、各国政府と交渉し、その苦境に終止符を打ち、再び故郷を手に入れることができるように努めてきました。

地震が起きてから 24 時間以内に、現地の UNHCR 職員はビニールシート 1 万 1000 枚とソーラーランタン（太陽光発電のランプ）4000 個などを、最も必要としている被災者に届けました。本来はネパールにいる難民に使われる全物資と、職員用の店にあった食糧すべてが、東部地域での支援として提供されました。最初に援助を届けた東部の 3 地域には、UNHCR 以外の組織はいませんでした。首都カトマンズでも、数日以内にシェルター用資材を配布しました。

UNHCR はシェルターを提供しました

約 50 万軒の家屋が全壊し、27 万軒が半壊したため、シェルターを提供することは UNHCR にとって最優先事項でした。推定 280 万人が外で暮らし、緊急支援を必要としていました。地震のほんの数週間後に雨季がやってきたことから、より一層このニーズは緊急性を有していました。野外での寝泊まりは、特に小さい子どもや老人たち、そして 1 万 4000 人以上ともいわれる負傷者にとって、身体に悪影響を及ぼす可能性があります。温かさ乾燥を保つことは、本災害の結果としての悲惨な死をこれ以上増やさないことに役立つのです。

家屋を修復したり臨時の住居を建てる家族を手助けするために、UNHCR は最初、防水シート 4 万枚以上を届けました。これは、現場での要望に応えたものでした。防水シートを、現地で入手できる木材やレンガと組み合わせることで、彼らはテントよりも融通の利く建物を建てられるのです。防水シートは、軽くコンパクトなので、空輸の際にも場所をとらず、より多くの物資を送ることができます。その後も、UNHCR は、できるだけ迅速に、家屋を安全に住める状態にするために必要となる物資の、国際・国内輸送を進めました。さらに防水シート 6 万枚と毛布 5 万枚を提供し、最も必要とされている人々に確実に届くように努めました。

ブータン難民がネパールの人々の家屋の修復を手伝っています

数十年にわたって、ネパールは寛大に難民を受け入れています。その多くはブータン出身です。ブータン難民のグループはこの地震に際し、驚くべき対応を見せました。彼らは難民キャンプ内の各家庭から配給食糧を集め、それを今回の地震ですべてを失った近隣のネパール人の村に提供しました。UNHCR は現在、地震の被害を受けたラムチャップ地区の 2 つの村で暮らすネパール人を助けている 15 人のブータン難民グループによるユニークな建設プロジェクトを支援しています。技術を有するこの難民たちは、モデルケースとなる 2 つの小さな竹製のシェルターを建設し、22 家族が同様



ネパール人の家屋再建を助けるブータン出身の難民たち。 UNHCR/Nepal

なシェルターを、地元で入手可能な資材、技術訓練、UNHCR のビニールシートを活用して建設できるように援助しました。

この素晴らしいイニシアティブは、難民と彼らを受け入れているコミュニティをつなぐ役割も果たしました。この大惨事から生まれた、一つの明るい成果であるといえるでしょう。

UNHCR は人々の健康を守り、安心感を与え、親族と連絡を取り合えるようにしました

建築材に加え、UNHCR は 4 万人から 5 万人に蚊帳を提供しました。そのうち、推定 2 万張の蚊帳は大家族、もしくは特別な事情として障害者や老人のいる家族に配りました。UNHCR は妊婦や 5 歳未満の子どもがいる家族を最優先に、大きな被害を受けた 12 地区をカバーしました。

ソーラーランタン約 1 万 6000 個も同様に届けられました。ソーラーランタンは、暗い夜に光を灯すことで人々に安心感を与えます。また、携帯電話の充電にも利用できるので、親族を見つけたり、連絡を取り合ったりするのにも役立っています。

UNHCR は教育支援を行いました

力を合わせた努力のおかげで、多くの公立学校は 5 月 31 日に再開しました。これは、家屋や地域社会の破壊にもかかわらず、子どもたちが教育を受け続けられるという偉業を達成したといえるでしょう。UNHCR が届けた防水シートが、医療の提供、子どもたちの遊び場、学校の空間となる共用シェルターとして使われています。子どもたちの学習過程を止めることなく続けることは極めて重要です。学校はまた、大きなショックを受けた出来事の後に、日常を取り戻すのに役立ちますし、先生方と友だちは必要な精神面のサポートを提供してくれます。



子どもたちは地震のひと月後から学校に通えるようになった。UNHCR/Nepal

UNHCR は精神面のサポートを提供し続けます

地震や余震に伴う物理的・身体的ダメージと同様に、住む場所や愛する家族を失ったことによる精神的ショックが、回復をより困難なものとしています。被災者にとって、どこに助けを求めればよいのかを

知ること、あるいは、話を聞いてもらえる人を探すのは難しいことでした。そのため、UNHCR は、不安症状を見つけて乗り越える方法や、地震のトラウマから子どもたちや家族を回復させる方法等の実践的なアドバイスを提供する、当初 150 万人に向けた視聴者参加型のラジオ番組を支援しました。視聴者からのメッセージは、電話や SMS、Facebook を通じて専門家に届けられました。この試みは大成功を収めたので、ラジオ番組は当初の予定より 1 か月間延長されました。現在、視聴者は 300 万人に達しており、地震の被害を受けた多くの家族によれば、とても難しい質問に答えてもらえること、恐怖を乗り越えること、そして不安やトラウマについて話す安全な場所を提供する生命線になっています。

UNHCR はまた、必要とされる支援を把握するための視察を通して、約 5000 人の話を聞きました。カウンセリングが、個人約 500 人、家族、社会的弱者たちを対象に行われました。地域社会には、被災後に家族と離れ離れになる危険や、社会的に弱い立場にある女性や子どもたちが人身売買や搾取の対象になる危険に気づくように働きかけています。この辛い時期に、皆が最も社会的に弱い立場に置かれた人々を保護するために最善を尽くせるように、地方自治体や地域社会の長と共に 30 回にわたる意識改革ミーティングが開催されました

UNHCR は法的サポートを提供し続けます

住む場所を失うという混乱の中、多くの被災者は身分証明書も失いました。またそもそも持っていない人もいました。すべての人が享受すべきサービスにアクセスするためには、たいてい身分証明が必要とされます。自然災害に伴い、差別がより先鋭化し得るので、UNHCR は、どのような背景や法的地位を有しようと、すべての人が享受すべき援助を受けられるように、特に配慮しています。

UNHCR は、ネパールにある 8 つの地区での法的保護や支援を通して、この問題の提唱に努めています。自然災害への対応は、支援を必要とする人々への同情に起因すると伝統的にとらえられてきました。同情心が核となる一方で、差別、性的暴力、書類の未所有、人身売買、児童虐待、危険な移住、資産回復問題を通して、支援へのアクセスが不平等になりうることを意識しなければなりません。したがって、法的支援デスクを設置する上での主な目標は、すべての人に、救援物資や支援への適切かつ公平なアクセスを確保することです。市民権がないから、あるいは、資産所有者ではなく借家人であったために保障されないから、あるいは女性もしくは少数派の出身であるからといって、誰一人として除外されるべきではありません。自然災害は、現存する性的差別や脆弱性に拍車をかけます。UNHCR は、本災害の被災者の誰一人として、絶対に、復興の過程で再び犠牲者とならないことを望んでいるのです。

**UNHCR は、このたびの人命救助活動に対して、
温かい支援の手を差し伸べてくださったすべての人々に感謝申し上げます。**

**UNHCR はこれからも、復興や開発を担当する機関と連携して、
支援を提供し続けてまいります。**